

# シュテファン・フッソング アコーディオンリサイタル

## 1 部

盤渉調(ばんしきちょう)の調子 ..... 雅楽  
ハイウェイ・フォー・ワン... アドリアーナ・ヘルツキー  
ドリーム ..... ジョン・ケージ  
いざ来ませ、異邦人の救い主よ BWV659  
..... J.S. バッハ  
ファンタンゴ ..... ユッカ・ティエンス  
タンゴ ..... I.ストラヴィンスキー

## 2 部

BOOK 1 ..... 原田 敬子  
深き淵より、われ汝に呼ばれる BWV687  
..... J.S. バッハ  
デ・プロフンディス 深き淵より... グバイドゥーリナ  
ソナタ 第45番 ト長調 ..... A.ソレル  
ドーリス様式によるソナタ 第47番... A.ソレル  
ソナタ 第62番 ハ長調 ..... A.ソレル

冬

## 四季コンサート<sup>2010</sup>

2010年12月3日(金)6:45PM

会場:浜松市教育文化会館

主催:浜松音楽友の会

### プロフィール

ドイツのケラーバッハ生まれ。ドイツ学術交流会、DAAD、バーデン・ヴェルテンベルク州芸術基金からの奨学金を得る。1987年ガウデアムス現代音楽国際コンクールで初のアコーディオン奏者として優勝。1999年ドイツ音楽協会クラシック部門で最優秀演奏家に選ばれる。同年、DENONよりジョン・ケージ作曲のCDをリリースし、ベスト・レコード賞に選ばれる。今まで80以上の作品が彼に捧げられ、DENONレーベル他各社より26枚のCDをリリースし、内いくつかのCDは賞を獲得している。1990年東京、ならびに1996年ニューヨークでのデビューをきっかけにアメリカ、欧州、インド、アジア各国にて幅広く演奏活動を繰り広げている。スイス・ロマンダ管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとする数々のオーケストラやアンサンブルと共演。ソフィア・グバイドゥーリナ、細川俊夫、クラウス・フーパーなど多くの作曲家と緊密な関係を保ちながら、1990年からはヴェルツブルク音楽院の教授としてアコーディオンと室内楽を指導している。

シュテファン・フッソング  
アコーディオンリサイタル



STEFAN HUSSONG  
ACCORDION RECITAL

●雅楽 (10世紀) / 盤渉調 (ばんしきちよう) の調子

雅楽とは、日本古代に成立した宮廷音楽。現在宮内庁楽部に伝承されている伝統的楽舞。日本古来のものに加え、アジア諸国から伝播した音楽や舞が融合した芸術で、10世紀頃にだいたいの様式が成立したと考えられている。大まかに、日本古来の歌謡をもとに平安期に完成された国風歌舞(くにぶりのうたまい)、大陸系の楽舞、日本古来の民謡や漢詩に節を付けた歌物(うたいもの)の3種類に別けられる。盤渉調の調子とは、トリア旋法と同じく、対応する洋音階の自然短音階と比べて「ラ」に相当する音が半音高くなっている。

●アドリアーナ・ヘルツキー (1953~) / ハイウェイ・フォー・ワン

ヘルツキーは、ルーマニアに生まれた女性作曲家で、シュトゥットガルト楽派の雄ミルコ・ケレメンの高弟である。この「ハイウェイ・フォー・ワン」は2000年に作曲された、フッソングからの委嘱作品。「私の曲で、アコーディオンはいわゆるハイ・スピード楽器。初めから終わりまで決して止まることも休むこともなく、継続的な動きをみせる。早いトレモロでの和音、サイレンのようなグリッサンド、反復するスタカート、急速なダブル・トリルとスケール、密度が濃くワイルドな、ほとんど混沌に近い雰囲気…」と作曲者自身は語っている。

●ジョン・ケージ (1912~92) / ドリーム

ケージはアメリカの作曲家、思想家で、音のない音楽を表徴した「4分33秒」や不確定的な音楽、偶然の音楽など、実験的な手法で現代音楽に与えた影響は計り知れない。

この「ドリーム」は1948年に作曲され、「響きを持続させるように」と指定されている。もともとピアノのために書かれた作品だが、耳を澄まして聴き入るような音楽で、特有の沈黙はない。アコーディオンによる演奏は、持続する和音に包み込まれるようにゆったりと音階が上下し、当時東洋哲学に大きな影響を受けたケージらしく、時間という観念からの解放を意味している。

●J.S. バッハ (1685~1750) / いざ来ませ、異邦人の救い主よ BWV659

バッハがヴァイマル時代に作曲し、晩年の1747年から49年にさらに手を加えてまとめたのが18曲からなる「ライプツィヒ・コラール集」と呼ばれるオルガン・コラール集である。

この「BWV659」は、バス(低音)が終始8分音符を刻み、待降節の有名なコラールのソプラノ部分に美しく独特な装飾が散りばめられている。バスの動きはキリストの地上への到来を表す厳肅さを示している。

●ユッカ・ティエンス (1948~) / ファンタンゴ

バーヴォ・ヘイニネンに師事したユッカ・ティエンスは、フィンランドに生まれたピアニスト、チェンバリスト、作曲家である。ピアニストとしてブレーズを、チェンバリストとしてラモーを演奏するティエンスは、作曲家としてはやはり難解な作風を持つ。この「ファンタンゴ」は、スペインの舞曲「ファンダンゴ」とは異なり、ファンタジーとタンゴを組み合わせたもの。任意の鍵盤楽器のために1984年に作曲された。タンゴには必須のバンドネオンとアコーディオンは姉妹楽器でもあるから、アコーディオンで演奏する必然性は高い。

●イーゴリ・ストラヴィンスキー (1882~1971) / タンゴ

ストラヴィンスキーはロシアの作曲家、指揮者、ピアニストである。その作風は原始主義、新古典主義、セリー主義と次々に変貌したが、オペラ、交響曲、バレエ音楽、協奏曲、室内楽曲やピアノ作品など、その創作は多岐に渡っている。

この「タンゴ」は1940年に作曲されたピアノ独奏曲。仄暗い情念の炎が燃えるような独特のロマンティズムを創出していて、甘美な味わいもある親しみやすい作品である。1953年には管弦楽に編曲された。

●原田 敬子 (1968~) / BOOK I for accordion solo (2009-10)

原田敬子は日本音楽コンクール第1位等を獲得した日本を代表する若手作曲家で、芥川作曲賞(2001)、尾高賞(2009)など数多くの受賞歴を持つ。この作品について、「アコーディオンは管楽器と弦楽器を合体させた『呼吸の母体』を持つ。この楽器を含む作品も増えたが、独奏楽器として取り組むのは10年以上ぶり2度目。実に難しい。長年取り組んできた『演奏者の演奏に際する内的状況に注目した独自の作曲方法』の追求は手応えが十分あり今も続く」と語っている。

●J.S. バッハ / 深き淵より、われ汝に呼ばわる BWV687

バッハは1726年以来、毎年クラヴィーアのためのバルティータを作曲し、まとめて出版していたが、「クラヴィーア練習曲集第3巻」は1739年に出版された。その中の、「キリエ」と「グロリア」に続く教理問答のための6つのコラールのうち、「悔改め」の第2曲がこの「BWV687」である。嬰へ音上のフリギア旋法による四声部曲で、定旋律はソプラノに置かれている。

●ソフィア・グバイドゥーリナ (1931~) / デ・プロフンディス<深き淵より>

グバイドゥーリナは、現代ロシアを代表する女性作曲家である。特徴的な楽器を組み合わせることでも知られ、またキリスト教の神学や神秘主義を題材とした作品を数多く手掛けており、宗教曲も多い。

この作品は、聖書の詩篇130篇からタイトルが採られている。その内容そのままに、静と動の間を極端に揺れ動く間からの叫びでもある。アコーディオンの持つ可能性が極限まで駆使されているが、本来はロシアのアコーディオンであるバヤンのために書かれた。1978年の作。

●アントニオ・ソレル (1729~83) / ソナタ 第45番 ト長調 アレグロ

ドーリス様式によるソナタ 第47番 アンダンティーノ  
ソナタ第 62番 ハ長調 アレグロ・スピリトゾ

ソレルはスペインの作曲家である。教会のオルガニストや聖職者として過ごしたが、禁欲的な生活の中で500曲にもものほる作品を残した。そのほとんどは、鍵盤楽器のためのソナタであり、おそらくは師事したであろうドメニコ・スカッラティの手法を踏襲し、なお変化に富んで、3楽章、4楽章構成のものも存在する。今日は、この3曲を、1曲のソナタのように演奏する。